

加美町



切込の裸カセドリ

加美町^{きりごめ}切込地区に伝わる^{はだか}「裸カセドリ」は、旧暦1月15日の前の土曜日に実施される火難除けおよび厄年払いの行事で、県指定無形民俗文化財に登録されています。「カセドリ」とは「^{かせい}火勢をとる」が由来であると言われていいます。



集落内の15歳以上の男子が腹帯姿の裸^{かまとすみ}になり、顔にヘソビと呼ばれる^{かまどすみ}竈墨を塗り、頭にワラボッチと呼ばれる藁で束ねて作った帽子を被り、腰に^{しめなわ}注連縄を着けます。装束の準備が終わると外に出て、彼らのうち厄年や若年の者が水を浴びせられ、その後「ホーホー」と声をあげながら集落内の家々を回ります。家々では、家人



の顔にヘソビを塗り、新年の挨拶をしてから、酒食のもてなしを受けます。

この行事は、火難除けや肉体的な試練を受ける通過儀礼の要素ばかりではなく、神の使いに化身した若者が家々を回り無病息災や福をもたらす小正月の来訪神行事の形態をよく残しています。